

『国連研究』第25号 原稿募集

編集委員会

日本国際連合学会会員の皆さま

『国連研究』第25号（2024年6月刊行予定）の原稿を下記の要領で募集いたします。

I. 募集する原稿：①特集論文、②独立論文、③政策レビュー、④書評論文、⑤書評

① 特集論文

第25号のテーマ：「主権国家体制と国連」（仮）

（趣旨説明）

ウェストファリア条約の成立によりその形成が始まったとされる主権国家体制は、20世紀終わりには「終焉」や変容を指摘されながらも、COVID-19への対応のように、依然としてその強靭さが見られます。しかしそれゆえに、ロシアによるウクライナ侵攻のように、国家主権という大きな壁を前に、国際社会が有効な解決策を見出せずにいる問題も生んでいます。国連をはじめとする国際機構もまた、主権国家である加盟国によって設立・運営されており、ウクライナ侵攻に対する国連安全保障理事会の機能不全のように、それらの問題に有効に対処できない事態が頻繁に見られます。他方、NGOなど市民社会組織や企業によるSDGsへの取り組みのように、主権国家以外のアクターによるグローバル・イシューへの取り組みやグローバルな抗議運動が活発に行われており、主権国家も無視できないものとなっております。そして、国連をはじめとする国際機構もまた、それらのアクターとの協働を強めています。

そこで、本特集では、現在の国連を含む国際社会は主権国家体制といかなる関係におかれているのか。そして、現在の国際社会は主権国家体制を乗り越えつつあるのか。歴史的・政治的・法制度的・実務的なアプローチから「主権国家体制」の意義・特徴・機能を捉え直すことで、改めて現在の国際社会の実像とそこにおける国連の意義・役割を問い直す契機としたいと考えています。

今回の特集は、本学会の2023年度研究大会の共通テーマと連動させたものですが、その報告・討論メンバーや内容に限らず、広く会員の皆様からの多彩な論文投稿に期待しております。国際法、国際政治学、公共政策、史学などからの考察はもちろん、実務に携わる方からの投稿も歓迎いたします。

② 独立論文

特集テーマにかかわらず書下ろしの論考を受け付けています。

③ 政策レビュー

実務家の方々による現場の目を通した論考を募集いたします。国連における政策、また国連に対する政策レビューや提言などをお寄せください。

④ 書評論文

国連研究ならびに広く国際関係研究に貢献をしたと評価できる関連する複数の編著書（和文・欧文）を紹介・批評し、議論を展開する論考です。

⑤ 書評

一冊の編著書（和文・欧文）が国連研究ならびに広く国際関係研究にどのような貢献をしたかについて紹介・批評するものです。原則として過去2年以内に出版された学術書を対象とします。

II. 応募方法

各種論文を投稿する際には、まず、タイトルと趣旨（800字程度）を下記のアドレスまでメールでお送りください。また、書評執筆の申し込みまたは書評対象候補の推薦についてもメールにてお知らせください。

文教大学 杉浦功一

E-mail: ksugiura@bunkyo.ac.jp

III. 原稿掲載までのプロセス

各種論文の応募タイトルと趣旨、また、書評に関する執筆申し込みと書評対象書の推薦をメールにて編集委員会にご提出ください。検討のうえ、編集委員会が執筆の可否を決定いたします。「執筆可」の場合には、『国連研究』の執筆要領に沿って原稿をご執筆いただき、締め切り日までに完成原稿を提出していただきます。投稿された原稿は、編集委員会が依頼する二名による査読を経て、編集委員会が最終的な「掲載の可否」を決定いたします。なお、審査対象となる原稿は、①特集論文、②独立論文、③政策レビュー、④書評論文、の4種類です。書評は査読の対象外ですが、書評を含むすべての原稿に対して、修正や題目の変更など原稿の内容にわたる改訂を求める場合があります。また、編集委員会の判断により、ご希望のセクションとは異なるセクションでの掲載の可能性があります。

IV. 各種応募ならびに完成原稿の提出の締め切り日

- ・各種論文の応募（タイトルおよび趣旨）：2023年7月31日（月）
- ・書評の執筆申し込みと対象文献の推薦：2023年7月31日（月）
- ・完成原稿の提出：2023年11月20日（月）

V. 執筆要領・編集要領について

執筆要領ならびに編集要領は、学会ホームページに掲載されておりますのでご確認ください。